幼稚園における「観察」（一）

これから幼稚園保育を行なるため、年間文部省主催の保育事項に関する講習に於て、「保育項中の観察」についての私の考を述べたが、発表の積りはありましたが、その後の文部省の講義に於て、「観察」については、私の考の端を発表したが、具體的な事項についての私の考を述べる積りでありました。即ち、観察の実際についての意見を三月号から発表したが、その前に述べた「観察」についての大體論を述べねばならぬからであります。さて「観察」とは、いふまでもなく、文字から考へても「観ること」が重要な要件であり、その考の端を発表したが、次に観察についての考へることと、これも勿論重要であり、しかし観察に於ても程度がありますので、大人的観察、真の観察に於ては、或は「観」の字に力強さを示すであります。
観の字に精神がこもって居ます。観に観察では観ることが最も重要なことであります。観ることのない観察、それは観察ではありません。観察と称するともそれは観察ではありません。しかし観ることの行わねばなりません。「観察」がはたしてあるようでありました。これは私は私の力で述べねばならぬことを除々した意味のものではないことは勿論であります。

観ることを単に眼を働かすことだけではありません。また幼稚園に於ける観察も観ることを除々した意味のものではないことは勿論であります。また幼稚園に於ける観察も観ることを除々した意味のものではないことは勿論であります。特に使われてあるのでありますから。「観察」というのはあります。観察の観は単に眼だけを働かすのではないことを注意して置かれなければなりません。観察と称するといふ字がだけを「観る」というのであります。観く凡ての感じ、器官を働かして外に観ることを知覚し認識することを知覚し認識することを意味せねばなりません。幼稚園に於ける観察は凡ての感じ器官させるべき方面から事物現象を知覺し認識することを意味せねばなりません。幼稚園に於ける観察は凡ての感じ器官を働かして観ることを意味してあるのであります。この「観察」に既に知覚の経験に於いて問答するか絵画を見せ既に観の観念を再現させ、それについてい啰～の話をすることをも含んであるのであります。
五

ポートはどんなところに浮びますか？ポートは何に使いますか？なぜといふような問答をして、

「ポートの観察であるといふようなものは幼稚園の「観察」ではないと言われます。私は断言いたしました。また、彼は

いう、この絵を御観察なさいます。これは万国の中の子供さん達の会議である所です。万国といふのはどこか曖昧な

知りませんか？それでは先生が教えて上げます。イギリスはありますか？それなら英語の万国の一です。それからフランソワ、

アメリカも万国の一です。それからロシアもイタリアも

ありましょう。万国といふのはここにありますよ、その中で一番エライのがどこか、この子がイギリスの子供さん

出鱗目で絵画を見せて幼児には全く理解の出来ないことを説明することも「観察」に次のような観察は決して「観察」ではない

一寸考へると絵を出してみるからといふ點もありますがそんな観察は決して「観察」ではないです。観察

観察をすることを必要条件といたしますが、それは幼児が観ることであるあります。保母が幼児の代に

観ることを決めるのは観察ではありません。幼稚園に於ける「観察」は幼児各自が観ることであるあり

ねばなりません。幼児各自が各自の感覚器官を働かして外界の事物現象を知覚し認識してこそ真の観察

が行われたのであります。子供だから保母や先生が代って観てはるのです」と誤解してはなりません。
幼児が観察出来ないものは、見られない観察をせんせん。幼児に出る観察をさせるのは、所謂観察でありますから保育が大人が幼児に代って観察するなどは、ありませ

私の観察であるのです。幼児が行う観察は、それが保育の観察ではなく幼児の観察で、幼児が行う知覚的観察であるのです。保育が行う観察は、保育が行う観察であるのです。

幼児が自らの感覚器官を成るべく多方面に働かせて知覚し認識すること、即ち、観察することによって、幼児は事象や現象の観念を得るものであります。換言すれば観察は幼児が自らの感覚器官を成るべく多方面に働かせて観察する観念を学ぶことであるのです。

観察の目的は幼児が感覚器官を成るべく多方面に働かせて知覚し認識し、外界の事象現象の正しい観念を得ることであることであるのです。観察の目的は幼児が感覚器官を成るべく多方面に働かせて観察する観念を学ぶことであるのです。
かった事物現象の観念を得ること。また既に持っている観念を一層正確にして明白になることがその目的である。世には今まで持っておらなかった観念を結び塗り見せることによって得られることが、既に持っている観念をさらに深く理解し得るうえに必要なことである。

観念を観察して観念を收得することも出来、観念にもなるのでありません。幼児の観念は幼児自身が事物現象を真に観察して観察すべき材料を提供することとは必要なることである。幼児の観念は幼児各自が事物現象を真に観察して観察すべき材料を提供することとは必要なることである。

注意を集中させるため、観察続けにおいて明確なる観察を収得することをも有効な手段に相違ありません。幼児の観察を元分観察させるため、観察を収得するため、観察を収得するため、観察を収得するため、観察を収得するため、観察を収得するため。

死んだるいの知識を得させることである。

強いて歴史的事実を説明して、それで保育項目の観察・通知が如きこととは愚かさ甚だしいといはね
ばなりません。幼児には「むかしの昔、またその昔」といっただけで済むであり、それでも現代と昔と
決して時代の観念を養う方便にはなりません。五つ六つの数観念が明白でない幼児、大きな川といへば
その村にある川位しか明白な観念のない幼児をつたえても世界を説いてもわかるものではありません。
将来的想像し類化し得る基礎となるべき近事なる事物の観念を幼児の感覚器官を働かして得させるのが目
的であると。

保育項目に於ける「観察」は幼児に近事なる事物現象の観念・成るべく明白なる観念を得せることが
目的であると。それと同時に幼児の感覚器官の練習をなすことその目的であると。

観察の形式的目的の重要な一つであり、後者は形式的の目的であると。将来自外界の事物現象を観察し認識する
為の一門戸、勿論幼児の過去に於ても現在に於ても、唯一絶対の門戸であった感覚器官の正常なる発達を促進することが
こそ真の観念が得られるのであります。これと同様に幼児は各の感覚器官を使用してこそ正常なる発
達をなすことが出来るのであります。単に幼児は各自観察することによって真に観念が得られ、各自の

五三
保育項目の観察、他の保育項目を成るべく融合統一して行はるべきものであります。即ち観察に於て得る観念を発表させるることを努めると共に他の項目に於ても明白な観念を得しむることに努め、感覺器官の練磨を心掛べきと勿論であります。それで保育目的の観察に於てとるべき材料は幼児の観念を豊富ならしめるやうに多くの事物現象を選擇せねばなりません。観察对象とかに限定することとは面白くありませんし、材料を強ひて限定して少数のものをよく観察せしめることがよくありません。幼児のことであるが、それから限るもののものを一時間も二時間も続けに力を盡すべきものではあります。限るべく数回又是数回観察させて態度が肝要であります。勿論毎回新しき態度のまち観察の材料は幼児の観察するに適當なるものであるべきことは當然であります。はち等に対してはあまり長くなりますが、更に三月を及ばせることにいたしませう。